

TOSHIBA

**2026年度
第1四半期決算**

2026年8月7日

株式会社 東芝

業績ハイライト

売上高・営業損益は昨年度に引き続き好調を維持
営業損益、売上高営業利益率（ROS）、当期純損益は、1Q決算として過去最高

(単位：億円)	FY25/1Q	FY26/1Q	FY25/1Q実績との比較
売上高	7,379	9,371	+1,992
営業損益(引当金等前)	416	1,128	+712
ROS	5.6%	12.0%	+6.4%pt
引当金等 ※1	▲15	▲9	+6
営業損益	401	1,119	+718
ROS	5.4%	11.9%	+6.5%pt
営業外損益	1,533	63,489	+61,956
うち、キオクシア ※2 関連損益	61	63,294	+63,233
税引前損益	1,934	64,608	+62,674
当期純損益	1,469	44,673	+43,204
EBITDA ※3	652	1,365	+713
EBITDA margin	8.8%	14.6%	+5.8%pt
FCF ※4	2,627	6,173	+3,546
営業CF	1,444	1,711	+267
投資CF	1,183	4,462	+3,279
期中平均為替レート(米ドル)	145円	160円	+15円

注：当社の連結財務諸表は米国会計基準に基づいております。

※1：PJ案件コスト精査等 ※2：キオクシアホールディングス(株)の略 ※3：EBITDA=営業損益+減価償却費+減損損失

※4：フリー・キャッシュ・フローは、制限付預金・親会社への貸付の影響を除いています。

2026年度 1Q決算についてのコメント

売上高 前年同期比 約3割増収、営業損益 同比 約3倍、当期純損益 同比 30倍超
主要事業の堅調に加え、キオクシア株の評価益等により
営業損益、ROS（11.9%）、当期純損益は、1Qとして過去最高

副社長執行役員の池谷 光司は2026年度1Q業績について以下のように述べました。

- **売上高**は、**対前年同期で約3割増収**、**営業損益**は、**同比 約3倍**と同実績を大幅に上回り、**営業損益と売上高営業利益率（ROS） 11.9%は、ともに1Q決算として過去最高を実現**しました。エネルギー、デジタルインフラ、デバイス&テクノロジーの3つのビジネスセグメント（BS）に、リテール&プリンティングを加えた**全ての事業領域で増収増益**となりました。
- 営業損益は、**生成AIの普及に伴う旺盛なデータセンター需要を背景に、とりわけHDDや、送変電配電・サーマル、産業システム等が堅調に推移**したことで、**全体として増益**となりました。前期まで米国関税影響が残ったリテール&プリンティングは、売価施策・構造改革を継続した結果、**影響を最小限**に抑えることができました。
- **当期純損益**は、キオクシア株の評価益等により同比30倍超と、**記録的な大幅増益**となり、**過去最高**となりました。
- **1Q業績は、本業の稼ぐ力の定着に加え、継続的な売価施策、固定費削減等の経営改革・自助努力の施策により、極めて順調な滑り出しとなりました。**中期経営計画『東芝再興計画』の目標である**2026年度全社ROS10%の達成**と、2027年度以降のさらなる成長に向け、エネルギー、データセンター、フィジカルAI、防衛等、拡大している市場機会の着実な刈り取りに向けた各種施策を加速してまいります。

2026年度 1Q決算の補足説明

項目	概要
売上高	デバイス&テクノロジーBSはHDD・半導体等、エネルギーBSは原子力・サーマル等、デジタルインフラBSは産業システム・鉄道・防衛等で増収。リテール&プリンティングも含め全ての事業領域で増収となり、全体として前年同期比で約3割増収（+27.0%）
営業損益	- 増収による増益に加え、限界利益率・固定費比率の改善といった経営改革効果・自助努力が、2025年度に引き続き増益に寄与し、全ての事業領域で増益 - エネルギーBSは送変電配電・サーマル&ハイドロパワー・原子力等、デジタルインフラBSは産業システム・鉄道・防衛等、デバイス&テクノロジーBSはHDD・半導体等が好調に推移し、前年同期比で約3倍の大幅増益を達成（2025年度 1Q 401億円→2026年度 1Q 1,119億円）
当期純損益	キオクシア株式の評価益等により、前年同期比で大幅増益（+4兆3,204億円）
FCF	キオクシア株式の売却益等による投資CFの改善、EBITDAおよび運転資金の改善等による営業CFの改善により、前年同期比で大幅増（+3,546億円）
受注高/受注残	- 受注高は、エネルギーBSを中心に好調な受注状況を維持 - 受注残は、エネルギーBSの受注規模の増加に伴い前年同期比で増加。現行の開示を始めた2018年度以降、最高額を記録

注意事項

- この資料には、当社グループの将来についての計画や戦略、業績に関する予想及び見通しの記述が含まれています。
- これらの記述は、過去の事実ではなく、当社が現時点で把握可能な情報から判断した想定及び所信にもとづく見込みです。
- 当社グループはグローバル企業として市場環境等が異なる国や地域で広く事業活動を行っているため、実際の業績は、これに起因する多様なリスクや不確実性（経済動向、エレクトロニクス業界における激しい競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度等がありますが、これに限りません。）により、当社の予測とは異なる可能性がありますので、ご承知おきください。
- 注記が無い限り、表記の数値は全て連結ベースの3ヶ月累計です。

TOSHIBA